

自身の職場で初優勝

宮崎県勢で初戴冠。300

ヤード超え飛距離で圧倒

《第16回九州ミッドアマチュア選手権競技》 ～宮崎レイクサイドゴルフ倶楽部

通算8アンダー 136

廣永 泰地（宮崎国際、25歳）



隅々まで知り尽くす「庭」を制した。「自分の職場でプレッシャーもありましたが、打ち勝つことができました。17番までは普通だったのですが、18番に入って心臓が

バクバクになって」と25歳の若い廣永がラウンドを振り返る。廣永は4年前から大会会場となった宮崎レイクサイドGCのスタート室で社員として働く。社員ではあるが、所属倶楽部は宮崎国際GCで参加した。今回出場の133選手の誰よりもコースを熟知。とは言っても、優勝できる保証はどこにもない。ただ、優利だったのは間違いない。



初日、5バーディー、2ボギーの3アンダー69で首位スタート。最終日は1イーグル、3バーディーの67。1人だけ2日間60台をマークし、2位に6打差をつける快勝だった。初日はロングホールで3つのバーディー、第2ラウンドは1イーグル（6番）、1バーディー（18番）とこの日もロングホールでスコアを3つ縮めた。飛び、という武器を持っているのだ。

本人は「オールラウンドプレーヤーを目指しているし、得意なクラブはない」と言うが、ドライバーの飛距離が群を抜く。300ヤード超えのショットを何度も披露。2番ミドル（437ヤード）は打ち下ろしのホールではあるが、第2打を52度で打った。同じ組の江口信二（大博多、54歳）はティーショットの当たりが良くなかったかもしれないが、セカンドで3Wを持った。江口は第12回九州ミッドアマのチャンピオンである。その江口らとは「YouTubeメンバーだし、尊敬する先輩たちで、楽しく、のびのびと回れました。2人には感謝しています」と同組の高村博臣（熊本空港、42歳）にも頭を下げる。

宮崎市生まれで、ゴルフは中1で始めた。それまではソフトボールに夢中。右肘を痛めた頃に父・泰清さん（当時HC3）の練習について行き、そこからゴルフのトリコになる。大分高（大分市）では「国体や日本ジュニアに出たことがある程度」と目立つ存在ではなかった。高校卒業後、プロを目指した時期もあったものの「やらされていたゴルフの感じがあり、ゴルフが嫌いになって」。4年間クラブを握ることもなかった。この間、西米良村（宮崎県）で林業の仕事をしたり、東京でも働いた。

2022年に宮崎に戻り、宮崎レイクサイドGCに就職。「先輩に勧められて再びゴルフを始めました。ある時、グランドシニアの人と回ったら、負けたんです。それで燃えました」。廣永のハートに火が付いたのであるが、その初老の方は廣永にとっては恩人である。

九州ミッドアマ16回目にして宮崎県勢として初優勝。廣永にとっても初の九州タイトル。自信を胸に全国大会に臨む。「去年、山下さん（大介、長崎）が勝っているし、九州勢で2連覇したい」と上を見る。将来的には自分のレベルを認識するためにプロテスト受験や、ジュニア育成・指導にも目を向けるつもりだ。



初優勝の廣永（右から3人目）と上位の選手たち

《宮崎レイクサイドゴルフ倶楽部》

